
Ⅲ むすび

本研究の最終目標はコース開発であった。3年間にわたって、ニーズ調査から教材等の開発、募集活動、コースの設計と実施、アンケート調査、企業訪問等と当初の過程をほぼ完了することができた。

経営者側をお願いするアンケート調査については、時期的に年度末の多忙な時期であったため、むしろ受講のお礼を述べることを主体とせざるを得なかった。しかし一部の事業所とはいえ、本プロジェクトに関する企業内の身近な問題について率直にインタビューを受けてもらい、コースは有意義であったとの印象が感じとれた。

本来、職種転換への有効性を長期的に調査するのであれば有意義なアンケート調査とはいえないが、やむなくコース実施後1ヶ月以内の対応しかできなかった。研究テーマの特性により、2～3年かもっと長期的な追跡調査が要求されることもあり得る。今回のテーマに対するこの点の対応が不十分であったことが課題として残ると思われる。

コース実施中に受けた印象では、ワープロ程度は何らかの経験をお持ちだと思ってよさそうであった。○×式のアンケート調査結果には、謙遜ぎみに解答されたのであろう。OFF JTによる系統的な学習を望んでいたためでもあろう。公共職業訓練施設の果たす役割は増大こそすれ、減少する事はないと信じる。